

千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討会

議事要旨

平成 27 年 10 月 27 日（火） 10:00～12:00

若里文化ホール 2 階

【出席機関等】

信州大学地域防災減災センター長菊池教授、山梨大学工学部秦准教授、長野地方気象台、北陸信越運輸局長野運輸支部、関東地方整備局長野国道事務所、北陸地方整備局河川部、北陸地方整備局千曲河川事務所、長野県危機管理部危機管理防災課、長野県建設部河川課、長野県警察本部警備部警備第二課、長野市総務部危機管理防災課、長野市建設部、長野市消防局、東日本旅客鉄道株式会社長野支社、東日本電信電話株式会社、東日本高速道路株式会社関東支社長野管理事務所、中部電力株式会社長野営業所、長野都市ガス株式会社、しなの鉄道株式会社、長野電鉄株式会社、アルピコ交通株式会社長野支社

【議事の概要】

- 設立趣旨書について、案の通り承認された。
- 検討会規約案について、案の通り承認された。
- 検討会の座長は、信州大学地域防災減災センター長 人文学部文化情報論分野 菊池 聡 教授が選出され、さらに座長代行として、信州大学工学部土木工学科豊田 政史 助教が指名された。
- 検討会の進め方について、案の通り承認された。
- ワーキンググループの設置について、案の通り、交通ネットワークワーキンググループと住民避難ワーキンググループを設置することで承認された。
- 今後の検討会スケジュールについて承認された。
 - ・ 第 1 回テーマ別ワーキンググループ H27. 11 月～12 月開催
 - ・ 第 2 回テーマ別ワーキンググループ H28. 1 月頃開催
 - ・ 第 2 回タイムライン検討会 H28. 2 月頃開催

【意見等】

■タイムラインの検討の意義について

○秦委員

今回タイムラインという新しいキーワードが出てきて、なぜタイムライン

なのか、タイムラインがなければ災害対応がしっかりできないのかというような疑問を持たれる方がいるかもしれませんが、その背景について私の方から説明させていただきます。

近年、災害が増えているという側面はあるのですが、人的被害に限定すれば圧倒的に減ってきています。結果として、今何が起きているか？私は、3つあるのではないかと考えています。

1つめは、地域を限定すると災害頻度は高くない。頻度は高くないということは、経験がなかなか蓄積されないことでもあるわけです。

2つめは、行政組織の特性、市町村、都道府県の中ではなかなか専門家を養成しにくい組織であるということになると思います。

3つめが、従来であれば、災害といえば天災という誰も悪くないという共通の理解があったのですが、近年において特に人的被害が出たときには、遡って各組織の対応が批判的に検証されるということが起こっています。特に避難勧告、指示の発令のタイミングについては必ず検証されます。災害だからと言って言い訳ができない、質の高い対応が求められている状況が背景にあるのではないかと考えています。

こういったことを解決していこうとすると、これまで地域防災計画、防災業務計画の改善を行ってきたわけですが、それだけでは十分ではないということがわかってきました。住民の避難は市町村が行うが、国土や施設の管理自体は国や県が行うという、その連携がうまくいかないという事例が起きている。市町村も避難勧告を発令した経験がないので、当事者が躊躇してしまう、もしくは入ってくる情報を処理している間に、被害が発生するという事態が繰り返し起きている。そういったときに関係機関がいつどんなタイミングでどんな対応するのか、事前に決められることは決めておくということが、実際に災害が起きた時に躊躇なく速やかに的確な対応や判断が行えるというのは自明だと思っております。これまでタイムラインのように、地域全体としてどこの機関がどういう対応するのか一覧できるような資料はなかった。

そういった意味で、このタイムラインを全国的に作成するという機運は非常に時宜を得ていると思いますし、先ほどの資料からもタイムラインを作成している自治体としていない自治体で避難勧告・指示の発令の回数が全然違うといわれていましたが、その有効性は明確に示されていると思われま

○菊池座長

不確実な中で様々な情報が飛び交い不確実性が増している状況下で、人間がどのように的確に意思判断、意思決定をしていくというのは非常に難しい

状況でございます。事前に十分に練られた計画としてのタイムラインの存在はなにより判断の助けになります。

意思決定の心理学では考えなくても動けるようなものを作っておくことが大事だと言われていますが、だからこそ考えなくてもいいということではなく、不確実で大変情報が入り組んでいる中で、実際に考えてしっかり結論を出すべきところに関係者の英知を集結してしっかり考えるために、自動的にしっかり動くところは動くようにしておくことが、タイムラインのひとつの重要な意義だと思います。

<以上>